

大学院生シンポジウム GS02

ポストゲノム時代の創薬を目指して～タンパク質にできること・タンパク質ならできること～ Post-genomic Research Contributing to Drug Development ~How to Analyze and Utilize Proteins~

古屋 貴人¹, 黒田 広樹²

¹東京薬大院薬, ²東北大院薬

ポストゲノム時代の創薬では、生体における主要な機能実体であるタンパク質に着目した戦略的な薬物設計が求められる。タンパク質は治療の標的としてだけでなく、その多様な性質からタンパク質創薬への応用も期待され、これまで発現プロファイルの解析から機能・相互作用解析まで膨大な解析アプローチが提示されてきた。しかし、生体内で複雑に相互作用するタンパク質の解析と応用には、単独分野からのアプローチだけでは限界があり、分野間の垣根を超えた多面的な視野を持つための議論の場が必要だと考えられる。本シンポジウムでは、「タンパク質に着目した創薬」を軸として病態に関連するタンパク質の単離・同定と定量的な評価法、更には DDS 製剤の創生に関わる基礎から最先端の技術をもつ6名の大学院生による研究発表の場を設ける。創薬の流れにおいて、如何に“病態を捉え、タンパク質との関連を評価し、薬へと応用”するかを体系的に理解することで、個々の研究者が断片的ではない、常に創薬の全体像を見据えた戦略を練る糸口となることを目指す。また、本シンポジウムではタンパク質の解析に注力する異なる技術を持つ研究者が意見を交わすことで、互いのブレイクスルーや共同研究の発案に繋がることも期待される。本シンポジウムが若手研究者の成長ならびにタンパク質創薬発展の一助となることを願う。